

ところ会 5 月行事案内

江戸城三十六見附を歩く-その1（浅草橋門～市ヶ谷門）

江戸には三十六の見附があります。今回はそのうちの五つの見附に行きます。よければシリーズ企画にしたいと思っています。

記

■日 時：平成 28 年 5 月 12 日（木）

所沢駅から 8:35 分発急行池袋行きに乗ります。間に合うように中央階段下集まりましょう。

所沢－池袋－(丸の内線)御茶ノ水－(JR 総武線)浅草橋

■見学場所及び時間：コース全長約 7km

所沢駅(8:35)・・・池袋(丸の内線)・・・御茶ノ水・・・JR 浅草橋駅(9:40)

⇒浅草橋門⇒筋違橋門⇒昼食(御茶ノ水駅周辺)⇒水道橋門

⇒小石川門⇒牛込門⇒市ヶ谷門⇒市ヶ谷(有楽町線経由)

⇒所沢(到着予定時間 16:00 頃)

■昼食：御茶ノ水駅周辺で 1 時間取りますので、それぞれで食事をして下さい。(予約に適した昼食場所が無かったので)

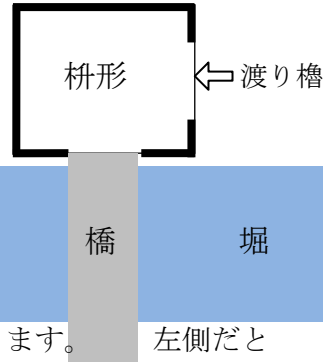
■交通費(所沢から)：約 1,200 円



江戸城三十六見附とは、江戸城門に置かれた見附（見張り番所）のうちの主な36か所を挙げたものです。皇居の中にあり行けないところもありますが3～4回に分けて行きたいと思っています。

見附は、江戸城を囲む堀を渡った先に門があり、門をくぐると枡形になっており、枡形の側面には大きな渡り櫓があり、江戸城防衛の拠点となっています。渡り櫓が右にあるのは訳があります。左側だと石垣に半身を隠しながらも鉄砲が撃てるからです。

別紙の江戸切絵図（1850年頃作成）も参考にして下さい。



< ① 浅草橋門 >

浅草橋北詰、右側歩道脇に見附跡の石碑があります。実際の浅草橋門は、橋を渡った先にありました。北関東・東北地方への要路を抑える役割を持ちますが、浅草寺に向かう道筋であったので浅草橋と名付けられました。



【初音森神社】

江戸初期まで馬喰町初音ノ森鎮守として祀られていましたが浅草見附門の建設のために社地の半分を削られ、さらに明暦の大火の後、郡代屋敷建設のため、現在地に移されました。繊維問屋街で商売繁盛の神様として信仰が篤い。



ここに、浅草御門の門柱があります。また明暦の大火についての説明もあります。明暦の大火の際、小伝馬町牢獄の囚人を解き放ち、この囚人たちが浅草橋門へ殺到した。見附の番人は脱走と勘違いし門を閉じてしまい、その為一般市民も含めて2万人近い死者を出したそうです。それにより両国橋が作られました。

両国橋は1686年に国境が変更されるまではここが武蔵と下総の境であったため付けられました。

明暦の大火(振り袖火事)

明暦3年(1657)3日間にわたって燃え、外堀以内のほぼ全域、天守閣を含む江戸城や多数の大名屋敷、市街地の大半を焼失した火事。死者は3万~10万人と記録されている。また、**振り袖火事**とも言われる。本郷の本妙寺で供養のために焼いていた振り袖が舞い上がり火元となったというのがその名の由来。なお、幕府が江戸の都市改造を実行するために放火したとする説や、実際の火元は老中・阿部忠秋の屋敷の失火であったが隣接した本妙寺が火元ということにした(大火以前より大きな寺院となり、さらに大正時代にいたるまで阿部家より毎年多額の供養料が納められていたことなどを論拠としている。本妙寺も江戸幕府崩壊後はこの説を主張している。)という説がある。本郷・小石川・麴町の3箇所から連続的に発生したため、放火とも言われる。

【関東郡代屋敷跡】

関東郡代とは主に関東の幕府直轄領の年貢徴収、治水、領民紛争の処理を行う役であり、馬喰町には訴訟の為地方から出てきた者が宿泊する宿が多かったそうです。



【柳原土手】

関東郡代屋敷跡から、西に向かって柳原通りが延びています。江戸時代にはこの浅草橋門から神田川上流にある筋違橋門(万世橋付近)まで、約1.1kmの土塁が続いていました。太田道灌が江戸城の鬼門避けに柳を植え、その柳が枯れた為、8代将軍吉宗の命により再度柳が植えられて柳原土手と呼ばれました。

【看板建築 海老原商店】

看板建築のファサード(建物の正面)は大工の棟梁の手によるものが多かったのですが、当建物は画家の手によるデザインです。洋風の色合いが濃く、バランス良くまとまったファサードデザインとなっています。1、2階はタイル貼りを基調とし、2階部分には色モルタル、屋根には銅版という具合に、多様な材料が使用されています。



【太田道灌が勧請した柳森神社・福寿狸】

室町時代に太田道灌が江戸城の鬼門避けに多くの柳を植え、京都の伏見稲荷を勧請しました。境内には富士塚や力石も残っています。この力石の説明によると、大正時代の力士であった神田川徳蔵とその一派が使っていたもの。この神社は、なんとっても「おたぬきさん」が有名です。境内の福寿社には5代将軍綱吉の母・桂昌院が信仰していた福寿神(狸)の像が祀られています。「たぬき=他を抜く」として、立身出世や金運、勝負運にご利益があるとビジネスマンに人気があります。



【万世橋】

江戸時代には少し上流に筋違橋があり、ここにあった筋違見附を明治 5 年に取り壊した時に出た石材を再利用して万世橋を建築しました。当初は萬世橋（よろずよばし）と命名されたが、次第に現在の「まんせいばし」という呼び方が定着しました。



< ②筋違(すじかい)橋門 >

筋違橋は現在の万世橋と昌平橋の間に架けられ、旧交通博物館建物のレンガ壁を突き破るような形で桁形の筋違橋門が築かれていました。

この筋違橋門は将軍が上野寛永寺や日光に出向く「御成り道」にあったので、御成門とも呼ばれていました。筋違の名称は、江戸城から上野寛永寺に続く御成道と、日本橋からの中山道が交差する場所なのでこう呼んだのです。

【昌平橋】

中央線・総武線・丸ノ内線の三線が同時に見えるポイントです。写真は粘って撮った三つの電車が入った一枚です。



【昌平坂】

昌平橋を渡り、湯島聖堂を目指す。湯島聖堂の手前を神田明神の方に右に曲がって登る坂が昌平坂で、坂の手前に小さく石柱が立つ。

【湯島聖堂】

5代将軍・綱吉により建てられた、日本の学校教育発祥の地。孔子を祀る孔子廟で、幕府は儒教の学問所を設け、昌平坂学問所と呼ばれていた。

「昌平」とは、孔子が生まれた村の名前で、それがこの地の地名にもなった。

孔子像：台湾から送られたもので、孔子像としては世界最大のものです。

入徳門：入徳門は宝永元年（1704年）に建造され、湯島聖堂内で唯一の木造建築です。

大成殿：孔子が祀られている大成殿。土日・祝祭日には公開される。この大成殿は関東大震災で焼失し、現在の建物は昭和10年に再建されたもの。

大成殿屋根上の像：屋根の両端に鎮座しているのは「鬼狛頭（きぎんとう）」と呼ばれるシャチホコです。頭から水を噴き出し、火災から建物を守っています。

同じく大成殿の屋根の中ほどにあるのは「鬼龍子（きりゅうし）」という聖獣で、孔子のような聖人の徳に感じて現れると言われています。

【仙台掘】

JR 御茶ノ水駅あたりでは、神田川は深い谷間を流れている。これは神田川が溢れて江戸城に水が流れないように、本郷台地を掘り下げて作ったためです。この掘削で出た土砂で日比谷あたりの入り江を埋め立てました。

元和6年（1620）、秀忠の命を受けた伊達政宗が、牛込橋付近から秋葉原駅近くの和泉橋までを担当し、この区間の途中にある神田山と呼ばれた本郷台地を切り通して湯島台と駿河台とに分けた。このため、この区間は



特に「仙台堀」あるいは「伊達堀」と呼ばれます。

【神田上水懸樋跡】

江戸時代に木製の樋を神田川の対岸に渡して日本橋方面に給水していた。これが水道橋という名の由来でもある。井の頭を水源とする神田川はこの先上流の椿山荘の近くの江戸川公園あたりに取水堰があり水戸藩江戸屋敷（小石川後楽園）に導かれた後、この樋を通して神田川を越え江戸市中に上水として供給された。



【三崎稻荷神社】

江戸城の外堀工事が始まると、築いた堤防が次々と崩れる事故が多発した。そこでこの神社で祈祷したら事故は収まり、工事は完成したと言い伝えられている。また、この一帯には幕末に講武所が設置され、剣術や槍術、砲術などを教えていた。

< ③小石川門 >

神田川と日本橋川の分岐点のすぐ西側にある、総武線と中央線のガードのあたりに小石川門があった。残念ながら現在は全くその形跡はない。ガード下右側の石垣は飯田橋駅



に向けて続くが、外堀の土塁跡である。この土塁の上を中央線や総武線は走っていることになる。

【甲武鉄道時代の鉄橋】

日本橋川に架かる総武線の鉄橋は、1904年に架けられたドイツ製のトラス橋で、NHKの「ブラタモリ」で紹介された。1904年からずっと現役を続けています！



【土塁の石垣】

小石川門跡から飯田橋方向に歩く。左手は外堀土塁の石垣が続く。写真の石垣は石を平らに加工して積み上げる「布積み（ぬのづみ）」と呼ばれる西洋式工法で築いていたが、日本式の谷積みの方が簡単で頑丈なので、途中から工法を変えたそうです。



【飯田濠跡】

飯田橋から神田川は北に分かれ、ここから先は飯田濠となるが、昭和の終わりころに、飯田橋から牛込橋の間が暗渠となり、現在はその上が水辺公園となっています。

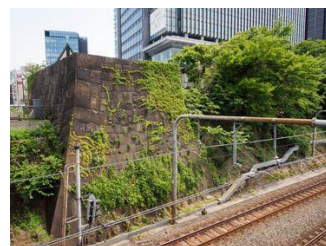
【牛込揚場跡】

水辺公園の中ほどに牛込揚場跡の碑が立つ。隅田川から神田川を船で遡って運ばれる荷を、この辺りで荷揚げしていた。



< ④牛込門 >

この門は土橋と木橋の組み合わせで、最後のところだけが木橋になっています。現在は巨大な石垣が道路両側にそびえています、牛込見附の台石です。線路からすると相当に高いですね。左の交番裏に阿波守と彫られた石があります。



【甲武鉄道牛込駅跡】

牛込門の石垣を後にして市ヶ谷に向けて歩き出すと、すぐ右手に2軒の店がある。甲武鉄道の牛込駅跡だそうだ。この先、土塁の上の散歩道を市ヶ谷まで歩きましょう。

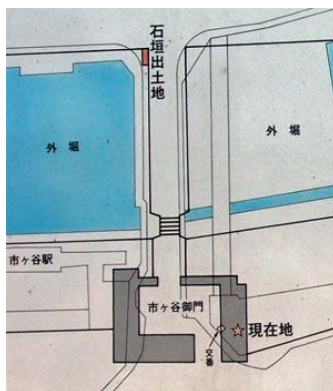


＜ ⑤市ヶ谷門 ＞

市ヶ谷駅前交番の裏手の小さな公園に、市ヶ谷門の枳形位置を示す案内と、発掘された石垣石が置かれています。

ここで使われていた烏帽子石という巨大な石は日比谷公園に移されています。

また、市ヶ谷橋脇の釣り堀側の斜面は江戸時代のままの石垣です。



【市ヶ谷駅 江戸歴史散歩コーナー】

南北線市ヶ谷駅の改札内に歴史コーナーがありますので見てみましょう。地下鉄南北線の工事に伴う埋蔵文化財の調査で、史跡江戸城外堀跡の門・土橋・石垣・土手をはじめとして、港区・千代田区・新宿区・文京区にまたがる14地点の遺跡の発掘が行われたのだそうです。発掘調査の成果と江戸時代の文献・絵図・絵画などをもとにして、地下に埋もれた江戸城の遺跡を紹介している場所があります。

帰路：市ヶ谷（有楽町線）－所沢

